

協力準備調査 (BOP ビジネス連携促進) 環境レビュー結果

2018年1月11日時点

案件名 : BOP 訴求型鶏卵生産販売事業準備調査 (BOP ビジネス連携促進)	
1. 事業実施地	インドネシア国アチェ州・南スラウェシ州
2. 対象分野	⑥農業
3. 事業の背景	インドネシアにおける食品類の価格については、野菜・魚などの生鮮食品類はおよそ日本の5分の1以下のものが多いが、鶏卵の価格は日本とほとんど差がなく、相対的な卵の価格は日本の5倍に相当するのが現状である。これは、インドネシアの鶏卵生産力・供給力の弱さが主要因と考えられる。
4. 提案製品・技術の概要	提案企業であるイセ食品株式会社は、世界で初めて一羽当たり年間365個という卵生産記録を達成した高度な生産技術を保有し、日本における鶏卵企業訳3,000社の中で最大規模を誇る。
5. 事業の目的	アチェ州・南スラウェシ州に養鶏場を建設し、トウモロコシをはじめとする各種穀物生産・加工へと事業を拡大するとともに、孵化場・種鶏場・成鶏農場・商品包装工場を並行して建設・運営し、貧困層に衛生的かつ栄養価の高い卵を流通させる。
6. 事業の概要・期待される成果	インドネシアの鶏卵生産力・供給力強化による鶏卵価格の引き下げから、現地住民の健康増進や養鶏事業を通じて、現地のBOP層の栄養改善及び雇用創出等への貢献が期待される。
7. 環境社会配慮	<p>①カテゴリ分類 : B</p> <p>②カテゴリ分類の根拠 : 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010年4月公布)に掲げる影響を及ぼしやすいセクター・特性及び影響を受けやすい地域に該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断されるため。</p> <p>③環境許認可 : 本事業に係る環境影響評価(EIA)報告書は、同国国内法上作成が義務付けられていない。ただし、提案するビジネスはインドネシアの環境保護管理に関する法律32号に該当するため、養鶏場建設準備段階において、必要な手続きを行う。</p>

	<p>④汚染対策：鶏糞の発酵処理施設及び排水の浄化設備導入により、大気汚染、水質汚染、廃棄物、悪臭等への望ましくない影響は最小化される。</p> <p>⑤自然環境面：事業対象地域は国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当せず、自然環境への望ましくない影響は最小限と想定される。</p> <p>⑥社会環境面：本事業においては、州政府保有地の賃借を予定しており、新たな用地取得や住民移転は生じない。</p> <p>⑦その他・モニタリング：本事業は、事業者が事業実施期間中の大気質、水質、廃棄物等のモニタリングを行う。</p>
--	--